

シミンのジリツを支援するNPO法人

# シミズシーズ

年次報告書 2024



／ これからのたのしいシーズ  
／ 新しい組織体制を準備中

# 2024 年度 総括

2024 年度のシミズシーズ(以下、当法人)は、3部門体制で事業を進めてきました。全体方針として「つながりから、まちへの広がり」とし、職員全員がひとつをつなぎ、コミュニティをつくっていくコミュニティ・コーディネーターとして各事業に取り組みました。

1つ目のまちづくり部門では、4月よりNPO法人ニュー☆ハリマとの共同事業体による播磨町中央公民館の指定管理運営がスタートしました。15年以上運営してきた兵庫県立東播磨生活創造センター「かこむ」(以下、「かこむ」)での経験を活かし、「播磨町がつながるコーディネート拠点」を基本コンセプトに掲げる施設のリニューアルを支えました。「かこむ」の運営に携わるまちづくり部門の職員との合同研修の実施等、当法人職員にとっても新たな刺激や視点を得られるきっかけになっています。「かこむ」運営においては、ボランティアによる自主企画が広がったり、広報誌「HINTO」でコミュニティ・コーディネーターを取り上げたりするなど、「つながる施設」を基盤にしながら「新しい自分に出会える施設」をコンセプトとしている今期の運営を深めることができました。2年目となる加古川駅前寺家町商店街での「かわのまちマーケット」では、中学生や高校生といった若い世代の当日ボランティアメンバーが増え、「みんなでつくるマーケット」というコンセプトが定着してきた実感をもつことができている。

2つ目のまちなび部門では、まち保育に取り組む企業主導型保育園「かわのまちほいくえん(以下、当園)」が4年目を迎え、園外の子どもたちや保護者にも目を向けて外に活動を広げていく新しいステージへと踏み出しました。7月から月に1-2回開催した「かわのまちあそび」は、園内の子どもたちと園外の近隣療育施設や家庭保育の子どもたち、保護者等地域の大人が、地域団体をはじめとするまちの先生が協力・提供する遊びを通じて交流できる遊び場です。保育園の給食室も「かわのまち食堂」というまちの人に給食を提供する新たな試みにチャレンジしました。まち保育を園外に広げる第一歩となった今年、試行錯誤の中で保育園がまちづくりに貢献できる1つ1つの小さな手応えとさらなる可能性を得られたように感じています。

3つ目のコンサルティング部門では、他県の行政機関からの委託事業や県内外組織とのコンソーシアムによって内閣府の補助事業を受託するなど、東播磨に留まらない動きが加速しています。オンラインツールが当たり前になった今、他県や他組織との協働や依頼が急速に増え、当法人がこれまでに培ってきた市民参加や自律を支援するノウハウへのニーズを感じるとともに、外部的な視点が入ることによって当法人の専門性をさらに磨くことができました。

これらのように各部門それぞれに充実した事業展開を行うなか並行して、今年度は当法人の次の事業方針を決める大事な1年となりました。市民参加型まちづくり事業と、NPO伴走型組織支援事業の2つの事業領域を育てるために、組織体制が今後どうあるべきかの議論を繰り返してきました。そのなかで、これまでの市民参加をさらに追求し、ひとを軸に置いた「これからのたのしいローカルを実現する」ことを方針として定め、当法人の次のステージに向けた準備を行いました。

「かこむ」と「かわのまちほいくえん」という拠点を生かしつつ、さらなるまちへの広がりに力を入れていきます。

# 2024 年度活動報告



## もくじ

P.01 総括

P.03 シーズについて

P.04 ハイライト

P.05 事業報告…まちづくり部門

P.13 事業報告…まちまなび部門

P.16 事業報告…コンサルティング部門

P.18 法人運営

P.20 講師派遣一覧

P.21 決算報告

P.22 2025 年度事業計画

## Vision

誰もが「市民」という役割をたのしめる社会へ

## Mission

シミズの自律と自立を支援する

## Service

“たのしい”のプロデュース

人のいるあらゆる場所、場面で、「自分でつくる」ことへの働きかけを企画するのが私たちの仕事です。

- 市民参加の企画・プロデュース
  - チームブランディングプログラムの提供
  - コミュニティプランニング
  - ファシリテーション
  - コミュニケーションデザイン
- など

## Category 事業部門と実施事業

事業部門を再編成し、以下の4部門で事業を進めています。

部門	事業区分	実施事業
まちづくり部門	市民参加型公共施設運営事業	東播磨生活創造センター 播磨町中央公民館
	コーディネート事業	企業へのコーディネート
	市民参加型まちづくり支援事業	かわのまちリビング運営支援事業 公共空間の市民参加支援事業 人・まちわくわく学び塾事業
		加古川経済新聞運営
まちなみ部門	学校キャリアデザイン教育支援事業	キャリア教育支援
	まち保育事業	かわのまちほいくえんの運営 かわのまちまちあそび
コンサルティング部門	NPO・地域伴走支援事業	理念構築・組織基盤強化支援 孤独孤立対策担い手事業
		HYOGON 事務局
講師派遣事業		講師・ファシリテーター派遣
法人管理	総会・理事会 会員発信・人材育成	機関誌発行
		職員研修

# 2024 年度 シミズシーズ ハイライト

2024 年度にシーズで起きた出来事を  
6 つのトピックスにまとめました♪

## 1 『kaco-LAB.』で 「学び、つながり、地域に広がる」 東播磨の未来を描く

東播磨生活創造センター「かこむ」の登録コミュニティ kaco-LAB. 事業は、ワークショップやイベントを開催する「イベントひろば」、意見交換や情報共有の「つながりひろば」、コラボ促進の「コラボひろば」、の3つを軸に、参加者のつながりを深めてコミュニティの活性化を図っています。これらの活動を通じて、「kaco-LAB. フェス」へとつなげ、登録会員が地域との協働や地域コミュニティの活性化に貢献しました。



## 3 公民館の指定管理運営1年目 播磨町につながる場をつくる

代表団体 NPO 法人ニュー☆ハリマを中心に共同運営を開始。播磨町中央公民館の基礎運営や既存事業の継続運営のほか、多数の新規事業に取り組みました。本指定管理事業では「播磨町がつながるコーディネート拠点」を基本コンセプトに、やってみたいが循環する播磨町を目指して運営しています。つながりから、播磨町をたのしむひとがどんどん増えていく場所にしたと思います。



## 5 「みんなでつくる」 かわのまちマーケットが ひととまちをつなぐ

2024 年度のかわのまちマーケットは「みんなでつくる」とことごとこだわった企画運営を実施しました。事務局やボランティアスタッフだけでなく、出店者さんも来場者さんもまちのひとと一緒に、商店街に飾るガーランドをつくるワークショップを開催し、みんなでまちの風景をつくってきました。また、他団体とのコラボ開催も増え、エリアも関わりしるも広がった一年でした。



## 2 遊びを通じて多世代・ 多属性が関わりあう 「かわのまちまちあそび」

「かわのまちまちあそび」は、園を中心、あそびを起点として多世代・多属性の地域の人々が関わり合い、顔見知りの関係が育まれる取り組みです。実施する中で、園児や保護者に加え、地域団体や学生、シニアなど多様な人々が企画段階から関わり、「子どもと関われる嬉しさ」や“得意を活かせる実感”を通じて、関わりの輪がまち全体にゆるやかに広がっていきました。



## 4 県内外の中間支援 NPOとの協働事業開始 セミナー事務局を担当

兵庫県内外の中間支援団体 9 団体で中間支援 3.0 『ひょうごモデル』推進コンソーシアムを形成し、大きく 3 つの事業を実施しました。当法人はセミナー事業の事務局を担当し、ボランティア等市民とともに運営していくための「参加のデザイン」をテーマにしたフォーラムと連続 4 回講座を実施しました。オンラインでも参加できる形態にし、全国から参加者が集いました。



## 6 対話と共創の文化をつくる 東播磨未来 100 人会議

3ヶ月間の伴走プログラムを経て、社会課題や地域課題に向き合う14名のプレゼンターがプレゼンテーションし、125名の参加者と共に解決に向けたアイデアを考えました。子育て、居場所、空き家、農業、地産地消、二拠点居住、廃校活用など、多様なテーマが扱われ、次に向けたつながりが生まれました。





上：東ハリマくらし学校「ほうき星の観望会」「リタイア後もアクティブに！シニア男性の時間の使い方」/下：kaco-LAB. フェス 2024の様子

市民参加型公共施設運営事業  
東播磨生活創造センター「かこむ」指定管理運営

## 参加・交流の「場づくり」を通して新たな活動の創出を促進



図書パートナー主導によるレイアウト変更

今年度は、指定管理期間（2021～2025）の4年目を迎え、「つながる施設」であることを基盤として、さらに「新しい自分と出会える施設」というコンセプトを意識した運営を行いました。

300以上の地域活動会員（個人・団体や地域応援会員（企業）が登録する「コミュニティ」「kaco-LAB.（カラボ）」では、会員同士の定期的な交流の場の充実を図り、新たな活動の創出を促進しました。交流・活動発信の場としては、夏・冬の定期イベントとして「夏休みおやこ体験ひろば」や「クリスマスひろば」を実施。また、ボランティア制度「かこむパートナー」では、パートナー視点から活動を発展させるためのアイデアが提案されるなど、活動に大きな広がりを感じることが多くなっています。

今年度の情報冊子「HINTO」では、「関係性を耕すHINTO」を

テーマに、地域におけるコミュニティ・コーディネーターの価値や役割を発信しています。

年一回開催する「kaco-LAB.フェス2024」では、2日間のイベントを通して、改めてつながりや交流の大切さを認識する機会となりました。イベントの準備段階より、ボランティアや学生インターンなど多くの方に関わっていただきました。次年度以降も更に楽しい空間の創出と関係性が深まる場となるように、「みんなでつくる」イベントとしてより良い形を模索していきます。

こうした市民参加型の運営は、今後のまちづくりにおいてもますます重要になると考え、これまでのノウハウを次年度以降は地域へと広げていきます。更に「新しい自分と出会える施設」として、出会いや学びの中に「新しい自分」への「つながり」を見つけていきたいと思います。

### DATA

開館日数	349日
年間来館者数	178,538名
有料施設稼働率	66.2%
登録ボランティア総数	23名
kaco-LAB.登録	308団体

## 個々の関わりが主体的になり 活動が多様化した運営パートナー

今年度は、定例活動を基盤としながら個々の得意分野を活かした多様な自主活動へと発展しました。図書パートナーはレイアウト変更や資源再利用のワークショップを企画・実施し、創造的活動を推進しています。フラワーパートナーは種まきや押し花しおり作りなどを通じて地域交流を深め、新メンバー加入により活動の育成と多様化が進んでいます。



園児と一緒に種まきをするフラワーパートナー

## 新しいまちとの関わり方を発信した 機関誌「HINTO」

新しい選択肢や考え方の幅を広げる情報を掲載した、今年で4冊目となる機関誌を発行しました。コミュニティ・コーディネーター（CC）の役割や価値を可視化し、新しいまちとの関わり方を提案しました。



関係性を耕す存在 CC の役割を可視化

## 地域福祉の新たな視点を提供した 「東ハリマくらし学校」

地域の「やりたい」を支えるコミュニティ・コーディネーターの育成と価値拡大を目的とし、今年度は「つながり」に関する課題の整理と対処法の共有を行い、多様な学習機会を提供し、地域ニーズや社会状況を反映させました。主催講座では、孤立・孤独に焦点を当てたシニア向け講座を開催しました。社会的処方テーマとした講座では、行政や教育関係者を含む多様な参加者に対し、地域福祉の新たな視点を提供しました。



地域とのつながりを処方する社会的処方の講演

## つながりが深まりコミュニティの活性化が加速した 登録制度「kaco-LAB.」

「kaco-LAB. 交流サロン」の名称を「ひろば」に変更し、親しみやすさを高めました。主な活動は、会員が協力してワークショップやイベントを開催する「イベントひろば」、意見交換や情報共有を行う「つながりひろば」、コラボレーションを促進する「コラボひろば」です。これらを通じて参加者同士のつながりを深め、コミュニティの活性化を図っています。

年に一度の「kaco-LAB. フェス」では、「たくさんの“知らなかった”に会いに行こう!」をテーマに、出展者・ボランティア・スタッフが協働し、「一緒につくる」体験を重視。企画・運営を通じて、新たな発見を促進し、参加者と出展者の交流を深める場を提供しました。



kaco-LAB. フェス参加者の新しい発見・出会い

## 社会課題の認知度を高め応援しあえる 仲間の輪を広げる「東播磨未来100人会議」

地域課題・社会課題に取り組む活動者は、まだ世間で認知されていない課題に取り組んでいるため、活動を理解してもらえず応援者が広がらないことが課題となっています。また、人口減少社会において特定領域の課題を少人数で解決するのではなく、個人・市民団体・企業・行政など多様な領域の人たちが手を取り合いながら解決を図っていく必要があります。当事業では、多様な活動者とその背景にある社会課題や地域課題を広く届けると共に、応援しあえる仲間を増やすことを目的に、「かこむ」の協働事業として実施しました。



当日参加者は運営メンバーを含め139名が一堂に会しました



中央公民館の夏まつりの様子(ロビー)

市民参加型公共施設運営事業  
播磨町中央公民館指定管理共同事業体運営

## 播磨町がつながるコーディネート拠点、運営を開始



公民館が多世代が交流する場に

播磨町中央公民館の指定管理運営1年目となりました。代表団体NPO法人ニュー☆ハリマを中心に共同運営を行うなか、公民館の基礎運営や既存事業の継続運営のほか、多数の新規事業に取り組みました。本指定管理事業では「播磨町がつながるコーディネート拠点」を基本コンセプトに、やってみたいが循環する播磨町を目指して運営。播磨町は人口3.5万人ほどの兵庫県で一番面積の小さなまちとなります。そんな播磨町で、拠点にひとが集まり、つながり、活動が生まれていくことで、播磨町をたのしむ人が増えていくと考えています。

播磨町中央公民館の運営では相談窓口や貸室運営だけでなく、居場所づくりやボランティアの参画、高齢者大学の運営や各種企画コーディネート、喫茶運営など様々な取り組みを実施しています。下に掲げる4



公民館のコーディネータースタッフ(笑)

### 4つの方針

- ① いつでも誰でも来られる  
みんなの居場所づくり事業
- ② 播磨町の情報を集め、  
編集し、発信する事業
- ③ あなたの「やりたいこと」を  
一緒に実現する事業
- ④ 誰もが使いやすい仕組みを  
つくりみんなで運営する事業

この事業方針を掲げて運営に取り組みました。  
また、中央公民館全体をつかっただけでなく、「夏まつり」や「中公まつり」なども企画実施。播磨町の多くのボランティアに運営参画いただき、事業を一緒につくることができました。運営スタッフ12名が全員コーディネーターとして運営するなかで、「かこむ」として運営するなかで、東播磨地域のコーディネーター同士がお互いの取り組みについて情報交換を行いました。



2年目のみとろキッズファーマーズクラブは67名の参加者と23名のボランティアと共に活動しました

市民参加型まちづくり支援事業  
みとろフルーツパーク企画運営支援

## グランドオープン！市民とともにつくる公共空間へ

加古川市みとろフルーツパークは、2024年4月に宿泊施設を含む全ての施設が完成し、新たに「みとろの丘」の愛称でグランドオープンを迎えました。2年目の運営支援業務では「あそび場プロジェクト」「みとろファーマーズマーケット」「みとろキッズファーマーズクラブ」の3つのプロジェクトにおいて運営支援を実施しました。

上半期を中心に市民を巻き込んだ運営を行うためのイベント企画と運営のノウハウをみとろの丘のスタッフへ伝え、みとろの丘スタッフが主体となる企画運営を目指しました。こうした支援により、みとろファーマーズマーケット運営については、7月よりすべてみとろの丘スタッフの手で企画・運営を実施しています。

年間を通じて運営支援を実施した小学生対象の農業体験プログラム「みとろキッズファーマーズクラブ」は、年間12回の運営をみとろの丘スタッフと共に取り組み、ボランティアスタッフの募集や管理、準備・作業などの事務局部分についてのノウハウ共有を行い共に活動しました。

### みとろファーマーズマーケット

開催数 3回  
来場者数 延べ900名  
出店者数 延べ28店舗

### あそび場プロジェクト

開催数 4回  
来場者数 延べ900名

### みとろキッズファーマーズクラブ

開催回数 12回  
参加人数 67名  
(幼児12名含む)  
ボランティア 23名



DIY イベント・あそび場をつくるプロジェクト



みとろファーマーズマーケットは約900名が来場



かわのまちマーケット開催の様子。シニアもキッズもごちゃまぜで楽しめる場に

市民参加型まちづくり支援事業  
かわのまちマーケット運営支援

## もっとみんなでまちを使うイベントに！続ける進化と挑戦



ボランティアは学生など若者の参加が増えた

昨年度から毎月第一日曜日に定期開催しているかわのまちマーケットを、今年度も年間を通して計12回開催しました。まちのイベントとして定着してきたことで、イベントの開催そのものではなくイベント内での企画の充実や他団体との共催など、前年度以上に市民参加を促す仕掛けづくりに挑戦してきました。公共空間を活用していくとともに、まちなかで人と人の関係性が育まれていくことを目的に実施している本事業の中で、出店者同士やボランティアスタッフ同士のつながり、そして来場者とのつながりがより一層広がる一年となりました。

さらに今年度はじめまち商店街を中心に、ベルデモール商店街やニッケパークタウンでの出店・企画を展開し、まちなか全体に広がりを持たせることができました。年末には加古川駅前広場から河川敷までをつなぐ大規模イベントとして「ムサシ年

末大朝市」との合同開催を実施し、まちの使い方をより広い視点で考える機会となりました。

運営は準備から片付けまで多くのボランティアが担っており、特に高校生や大学生の継続的な参加が目立ちました。彼らは受付や警備だけでなく、出店準備・撤収にも積極的に関わっています。中には卒業論文の研究対象としてマーケットを取り上げ、アンケート調査や企画立案に携わる学生もおり、関わりを通じて学びを深めていました。

また、法人内の秋まつりや食堂企画、ギャラリー展示などを同日開催することで、各事業の相互理解や協力体制の強化にもつながりました。ほかにも地域団体によるライブやショー、キッズマーケットなどが実施され、多くの市民が多様な形でイベントに関わり、「みんなで作る」の合言葉のもとで共にイベントをつくることができました。

### DATA

年間出店数	646 店舗
年間来場者数	38,863 名
ボランティア参加数	127 名



まちマチゼミに参加した若者たちの企画「人狼スタンプラリー」と「ダンボールアート」の様子

市民参加型まちづくり支援事業  
東播磨県民局「東播磨『ひと・まち』わくわく学び塾事業」運営

## 実践型のまちづくりの体験機会を若者へ



デザイナーから企画のポイントを学ぶ

「東播磨『ひと・まち』わくわく学び塾事業」は、進学や就職により地域を離れる可能性のある若者を対象に、東播磨地域への愛着を深め、地域づくり活動への関心を高めることを目的に、兵庫県東播磨県民局からの委託を受けて実施しています。

今年度は、2024年度東播磨「ひと・まち」わくわく学び塾事業として、若者がまちと関わりながらイベントを企画・実施する体験型プログラム「まちマチゼミ2024」を開催しました。全6回のプログラムには中学生から社会人まで16名が参加し、まちづくりに関する学びを重ねながら、11月の「かわのまちマーケット」に向けた企画の立案・準備・実施・振り返りを行いました。プログラムでは、講師による学びやフィールドワーク、商店街への協力



どうすれば当日参加者に楽しんでもらえるか議論

依頼を通じてまちのひととの接点を築きました。本番では、若者たちが考案した「人狼スタンプラリー」「ダンボールアート」の2つの企画を実施し、合計250名以上が参加。特に親子連れが多く訪れ、まちに触れる楽しいひとときを提供しました。参加した若者からは「自分たちのアイデアで人を喜ばせられた」「商店街の人に感謝された」などの声が寄せられ、地域とのつながりや自己の役割を実感する経験となりました。事後には他の地域活動への自発的な参加も見られ、地域への愛着形成と継続的な関わりを促進する成果がありました。今後も若者が地域と関わることでできる機会の創出が求められています。



企業・組合との連携により講師が多様化し、全回満席で地域に定着。参加者・講師ともに満足度が高く、貴重な体験機会を提供

企業等へのコーディネート事業  
環境学習リサイクル講座へのコーディネート

## 活動の場を広げ地域貢献を後押し

市民活動やNPO、サークル活動にとつては、自らの活動をPRする機会も多くありません。一方で、地域社会との連携を重視する企業は増加しており、地域貢献活動は企業活動の重要な要素の一つとして認識されつつあります。当法人のコーディネート事業では、そのような市民の活動と企業や組織をマッチングすることで、活動場所の提供と同時に、地元企業の地域貢献を後押ししていきます。

高砂市の広域ゴミ焼却施設である「エコクリーンピアはりま」にて、同施設の目標である市民に親しまれるリサイクル施設としての側面を重視し、「環境学習リサイクル講座」の提案と講師のコーディネートを行っています。

昨年に引き続き「ものづくり」に特化したワークショップを開催しまし



放置竹林整備の竹をランタンにアップサイクル

た。全回定員満席で、地域に根付いてきています。特に夏休み期間中の小学生向けの特別講座は、参加希望者の抽選倍率が最大7倍となり、ニーズの高い講座となっています。

年間を通して人気の高い木工ワークショップの回数を増やし、地元の材木端材を使った椅子づくりや竹林整備で得た竹を活用したランタンづくりなど7講座10回開催しました。参加者にとって自宅では使用する機会の少ない工具を扱う体験となり、講師にとつては材料を通して地域を取り巻く自然環境の課題を知ってもらう機会となり、双方から非常に好評を得ました。

今年度はより幅広い世代の参加を促すため、成人を対象にした金継ぎや苔テラリウム作りなどを取り入れ、専門的な内容の講座を提供することができました。



成人を対象にした金継ぎ講座で作業に集中する参加者

## 地域の今の情報を丁寧に届ける

2018年度から加古川の情報を全国に配信するため、BAN・BANネットワーク株式会社と連携してニュースサイト「加古川経済新聞」の運営を行っています。2024年度は週1回・年間50記事の配信を担当し、地域のビジネスやカルチャーに関するニュースを取り上げました。当法人の担当配信では、取材先候補をインスタグラムなどSNSも活用して情報収集を行い、地域で開催されるイベントや新たに始まった活動の紹介を中心にとした取材先選びに注力しました。突発的な取材依頼にも配信スケジュールをBAN・BANネットワークと調整し、地域活動の情報提供に努めました。



自宅の一部開放した駄菓子店を紹介



男女混合・シニア向けサッカー大会を紹介

取材先	活動ジャンル	紹介内容
加古川市 40件	地域活動 32件	店舗オープン・周年 20件
高砂市 5件	飲食店 13件	イベント紹介 28件
稲美町 1件	その他 5件	その他 2件
播磨町 4件		

## 学年横断型の連続プログラムを提供



全クラスで実施した大規模なグループワーク

卒業後の進路を見据え「自分らしい人生を自ら選択する力」を身に付けることを目的に、兵庫県立農業高等学校定時制課程において「未来を拓く特別授業」と題した授業プログラムの企画から実施までを担当しました。

今年度は、昨年度までの1・2年生に加え、3年生も対象とする学年縦断型のプログラムへと発展。さらに、例年はクラスを半分に分けて少人数で行っていた形式から一転し、学年全員が参加する大規模なグループワークにも挑戦しました。大規模グループワークとすることで生徒たちは他者の多様な考えや価値観に触れ、自分との違いを受け入れながら自己認識を深めていきました。

学年横断型プログラムは、就職活動が本格化する前段階にある2年生

を中心に据えつつ、各学年の担当教員と連携し、3年間を通じた連続性あるプログラムを設計しました。

3年生は就職活動に特化したプログラムを設計。特に「新入社員に求められること」を考えるワークでは、「素直さ」に焦点を当て深く掘り下げていきました。相手の話を素直に聴けないとき、自分の中でどんな感情や思考が働いているのか。どうすれば相手の意見を素直に受け止められるようになるのか。そんな問いと向き合っていました。授業終了後、「相手に対する思い込みに気づけた」「聴くことが自分の成長につながる」と実感したといった、前向きな感想が多く寄せられました。「素直になること」が、彼らにとって新たな気づきと可能性の入り口となったようです。

### DATA

#### 兵庫県立農業高等学校 定時制課程

- 3年 シミンのジリツ講座 3回
- 2年 未来を拓く特別授業 6回
- 1年 未来を拓く準備授業 2回

#### 兵庫県立農業大学校

- 1年 キャリアデザイン 4回



毎日の生活に地域の大人の参画が増え、あたたかく応答的な関わりが継続している

まち保育事業  
かわのまちほいくえん運営

## 子どもと地域が響き合う“まち保育”の現在地



園児作成の散歩マナーを呼びかけるポスター

「まちの人と毎日をつくる保育園」を保育理念におく「かわのまちほいくえん」は、運営4年目を迎えました。地域に根付いた活動を展開する中で、「かわのまちほいくえん」の子どもたちとして認識され、地域の方々から声をかけていただく機会が増えています。

昨年度のゴミ拾い活動から発展し、園児が作成したポイ捨て禁止ポスターがきっかけとなり、今年度は地域の店舗からペットの散歩マナー向上のアクション考案依頼をいただきました。また、未満児クラスが散歩で訪れる高齢者施設では、玄関先の挨拶から一歩進んで施設内での交流が実現し、雛人形の見学や歌の披露といったふれあいが生まれています。

保護者との関係においても、オープナー（保護者参観）において保護者が保育補助として参加する形式が定着し、「まちの先生」として保育に関わる保護者も現れ、子どもたちや職

員との距離がさらに縮まりました。

また、昨年度インターン生が主となって企画した「あおぞらまちほいくえん」を「かわのまちまちなそび」としてリニューアルし、園の自主事業として取り組みました。「遊び」を通じて地域の関わりあいを育むことを目的に、年間11回の遊びの実施と、「東播磨遊び場づくりフォーラム」を開催。地域内の新たな接点や顔見知りの関係が生まれる場を創出しました。

これまで子どもたちがまちで育つ土壌づくりのため、まちのさまざまな資源を活用した「まち保育」を実践してきましたが、そのためには人と出会いながら、場を開いていく循環が必要だと実感しています。子どもとまちのつながりを軸に、つながる価値を私たち自身が実感し、多様な属性や要素を生活圏に存在させていくことが今後さらに重要であると考えています。



保護者による職業を活かした保育展開

## まちとつながる給食室

今年度、給食室では「まちと関わる」をテーマに掲げ、地域とのつながりを深める取り組みを行いました。その一環として、園舎の前で開催される「かわのまちマーケット」にて『かわのまち食堂』をオープンしました。調理職員自ら商店街にチラシを配布し、地域の方々と直接対話することで新たなつながりが生まれました。当日は26食を提供し、地元産の旬食材や伝統的な製法で作られた調味料を活用した給食の魅力を伝えることができました。「こだわりが伝わる」「次回も楽しみ」などの声をもらい、調理職員の励みになるとともに、商店街の方々と継続的な交流が生まれています。また、職員間でも「チャレンジしよう」という前向きな姿勢が芽生えました。今後も地域や保育とのつながりを深めていきたいと考えています。



幅広い層の来場があった「かわのまち食堂」

## 認知向上に向けた情報発信の取り組み

今年度、「かわのまちほいくえん」の保育実践や地域との関わり認知を高めるため、積極的な情報発信に取り組みました。Instagram および Facebook を通じてまちあそびや園行事の様子を定期的に発信し、昨年度はそれぞれ計99回の投稿を行いました。保育の業界誌「ほいくあっぷ」には園における“まち保育”の実践内容が掲載されるなど、広がりが見られています。また、保育園の公式ホームページのリニューアルに向けて準備を進めました。これまでの入園希望者を主な対象としていた情報発信に加え、園への視察希望者や地域住民に向けた情報の整理と掲載内容の充実を図り、園の活動を多方面にわたって発信する体制を整えていきます。

### 2024年度 まちの先生との 体験活動(一部)

- ・運動教室
- ・種まき体験・花の植え替え
- ・リトミック
- ・音楽あそび
- ・縫い物あそび
- ・七夕用折り紙飾りづくり
- ・絵本の読み聞かせ
- ・性のお話
- ・就学準備教室
- ・クリスマスコンサート
- ・茶道体験
- ・チョコレートづくり
- ・折り紙あそび
- ・節分恵方巻きづくり
- ・パブリカの苗植え
- ・助産師とのお手玉づくり
- ・人形劇
- ・南京玉すだれ

## 保護者とともに育む、子どもたちの学びの時間

1日1組、保護者に保育補助者として保育に参加してもらうオープンデー(保護者参観)では、今年度は保育者と保護者のやりとりやお迎え時の子どもたちの遊びをヒントに、当日の活動内容を考えてくれた家庭が多く見られました。保護者の趣味や仕事を活かした活動や、今後の子ども達の成長につながるようなレクリエーションなど、子ども達の学びの時間を一緒につくることができました。オープンデーの他にもギター演奏や木工など保護者の趣味や特技を活かし活動を盛り上げてくれたり、運動会の準備片付けを主導してくれたり、ともに子ども達に関わり、成長を願っていることを改めて感じました。今後も保護者も園をつくるまちの人の1人として、さまざまな形で関わってもらえるよう取り組んでいきます。



保護者によるかわのまちクイズが大盛り上がり

## まちと園、双方向の関わりが育む気づきと成長

今年度も地域との関わりを通して多くの学びと成長が見られました。中でも、近隣のたい焼き店とのやりとりが印象的です。犬の散歩マナーについて相談を受け、子どもたちはまちを調査し、気づいたことをもとにポスターを作成。地域に貢献する体験を通じて自信を育みました。

これまで保育園側からの発信が中心でしたが、今回はまちの人からの依頼がきっかけとなり、関係性が一歩深まる出来事になりました。また、近隣の神社からは豆まきへの場所提供があり、SNSでも活動が紹介されるなど、まちとのつながりが広がっています。今年度も「まちの先生」として延べ167名の地域住民が来園し、子どもたちに様々な体験を提供してくれました。芋掘りや魚屋訪問などの園外での体験活動も継続されています。



近隣のたい焼き店とポスター作成に向けて作戦会議



地域人材の様々な得意を活かした「あそび」の形を通じて、多世代・多属性が交流する様子

まち保育事業  
かわのまちまちあそびの実施

## 「まちあそび」がつくる、地域のつながりの場

「かわのまちほいくえん」では、得意や好きを活かして関わってくれる「まちの先生」が、子どもたちの日々を豊かにしてくれています。今年度はその関わりを活かして、遊びを通じて普段関わりが少ない多世代・多属性が、交流し顔見知りになれる場を目指して「かわのまちまちあそび」をスタートしました。年間を通じて計12回を実施し、地域の方と「一緒につくる」ことを意識して企画を進めていきました。

木のおもちゃで遊ぶ、パンを作る、自然の中でフィールドワークなど、様々な遊びを通じて多様な人と子どもたちが関わり合う機会が生まれました。

開催する中で特に印象的だったのは、11月にシニア団体と一緒に企画、開催をした「フィールドゲームの回」です。企画当初は「子どもにどう接していいのか」と戸惑っている様子もありましたが、打ち合わせを重ねる中で前向きに企画に関わってくれるようになりました。当日には紙芝居や多くの工作物を用意し、参加した地域の方と一緒に交流を楽しむ姿が見られました。終了後には「またやりたい、子どもたちと関わって本当にうれしかった」との声もありました。

10月には「東播磨遊び場づくりフォーラム」を開催。TOKYO PLAYの高橋利道さんによる都

市での遊び場づくりの実践紹介に加えて、地域で遊び場づくりに取り組む団体によるクロストークも行われ、取り組みの紹介や「どんなふうにあそびの場をつくるか」をテーマに話し合いました。会場全体でのディスカッションでは子どもに関わるのは初めてという参加者からも「自分にもできる関わり方があるかもしれない」といった声があがり、遊び場を「みんなで作ること」として捉えるきっかけになりました。

これからも遊びを通じて地域の関係性が育つまちあそびを続けていきたいと思えます。



地域での「遊び場」を学ぶ「遊び場づくりフォーラム」

### 実施概要

年間開催  
12回(研修含む)  
参加者数  
延べ643名  
ボランティア参加数  
64名

## 団体に合わせた伴走型中間支援

今年度も非営利団体への持続可能な組織づくりの支援を行いました。

2 団体へは理念構築支援を実施しました。農林水産省の専門家派遣事業を通じて「フードバンクあしかが」に対して、団体の強みや存在意義の再確認によるチーム力向上支援を展開し、オンライン・対面合わせて計7時間の支援を提供しました。また、「多様な学びプロジェクト」には、Panasonic・NPO/NGOサポートファンドの助成を受け、前年度からの継続支援として、理念再構築と組織への浸透を目的とした包括的支援を実施しました。ビジョン・ミッション・バリューの策定からウェブサイトへの反映まで、オンライン9回、対面合宿2回、計42



合宿でのグループ対話の様子

時間に及び支援を行いました。

組織基盤強化支援においては、(公財)ひょうごコミュニティ財団の有園基金助成により、「性暴力被害者支援センター・ひょうご」への支援を4年目となる今年も実施しました。組織の不変部と可変部の洗い出し、メンバー参加型のアイデア創出、業務整理、組織体制の再検討など多岐にわたる支援を通じて、持続可能な組織体制の構築に寄与しました。

非営利団体の持続的發展に必要な理念の明確化と組織基盤の強化という二つの側面から、各団体の特性や状態に合わせた伴走型支援を行うことができたと感じています。



フードバンク団体へのセッション提供

### 地域活動 NPO 創出のための連続講座運営委託事業

## 居場所づくり連続講座企画委託事業

今年度の新たな動きとして、奈良県生駒市の市民活動推進センターより、地域で居場所をつくってきたい人を対象とした連続4回の講座「小さくはじめる場づくり講座」のプログラム設計と当日実施運営を行う委託事業を受託、実施しました。18名の参加者に対して、レクチャー・個人ワーク・グループワークを組み合わせ、場づくりのはじめの一步を後押しする講座を設計。

終了後のアンケートでは、講座内容に「満足」「ほぼ満足」と答えた参加者は92.9%で、全員が「今後活動を進めていく上での新しいつながりができた」という結果になりました。実際、最終回には参加者から自発的に今後も連絡を取り合うLINEグループができ、終了後の活動



講座でのグループワークの様子

に参加し合おう、応援し合おうという空気が生まれていました。当法人としても本事業をきっかけに生駒市及び生駒市の地域団体やまちづくりのキーパーソンとのネットワークができ、東播磨地域で培ってきたノウハウをさらに広く社会に届けていく足掛かりの1つをつくることにつながったように感じています。

#### 実施内容

- 第1回 つくりたい場を伝えあおう
- 第2回 地域を知って、ニーズを探ろう
- 第3回 場づくりの基本を学ぼう
- 第4回 自分の活動を発表しよう



抽選によって決定した参加者のみなさんと

## 県内外の中間支援 9 団体による合同事業



参加のデザインフォーラムの様子



短期集中ゼミ第4回での交流時間

兵庫県内外の中間支援団体9団体（県内6団体・県外3団体）によるコンソーシアムが、内閣府の孤独・孤立対策担い手育成事業として「孤独・孤立対策のための中間支援3・0『ひょうごモデル』推進事業」を実施しました。当法人はセミナー事業の事務局機能と、伴走支援事業における1団体への支援を担当しました。

セミナー事業では、コンソーシアムメンバーによる7回の研究会を通じて各団体の専門知見を共有する場を設け、それらを元にNPOや市民団体の市民参加力向上を目的として、「参加のデザインフォーラム in HYGOGO」と「参加のデザイン短期集中ゼミ」を企画、実施しました。フォーラムではアンケート回答者の96%が後続の集中ゼミに関心を示し、参加効果や自団体の可能性を再認識したとの声が多数寄せられました。短期集中ゼミでは、フィードバック中心の学習環境を構築し、兵庫県内をはじめ全国各地からの参加者による各回アンケートでは満足度平均4.59点（5点満点）を記録しました。参加団体からは参加団体同士でフィードバックし合う時間や、講師からのアドバイス等により、「活動を振り返ったり客観的に自団体の価値に気づいたりする機会になった」といった声がありました。終了後、ゼミでの学びをもとにボランティア募集を開始する等、具体的な参加団体の動きが見られて

います。

伴走支援事業では、一般社団法人明石コミュニケーション創造協会と協働し、1団体を支援しました。職員参加間のコミュニケーションやチームビルディングを目的とした対話の場を提供し、内部での継続的な対話の仕組みづくりをサポートしました。伴走支援事業ではコンソーシアムメンバーによる研究会にて伴走支援のカンファレンスを行い、単独団体では得られない多角的視点を得られる有意義な学びの機会になりました。

今年度のコンソーシアムによってできた県外団体とのネットワークや協働の企画を次年度からさらに発展的なものにしていきたいと思います。

### DATA

#### 参加のデザインフォーラム

・9月29日 / 73名

#### 参加のデザイン短期集中ゼミ

- ・第1回 参加のイメージを描こう
- ・第2回 参加の入り口を見つけよう
- ・第3回 参加のプログラムをつくろう
- ・第4回 プログラムを共有しよう

#### 伴走支援

・全7回 延べ44名

## ネットワークで運営する事務局体制へ移行



実行委員会制で企画・運営した賀詞交歓会

兵庫県内のNPO・NGO約120団体が入るネットワーク組織の事務局を担当しています。これまで当法人が団体として担っていた事務局業務について、昨年度より新たに2名が入り4名の事務局チームで業務を進めています。組織運営に必要な会議運営（総会・運営委員会）のほか、会員管理などの仕組み化を進めつつ、事務局チームで役割分担をしながら進めました。事業においては、各団体の代表者に限らず、誰もが関われる仕組みづくりを目指し、「実行委員会制」の導入を進め、賀詞交歓会では、会員団体から選出された12名の実行委員が企画・運営に参画し、実行委員会制が継続的な仕組みとして定着しつつあります。



部門ごとの研修、法人全体での研修、外部講師を招いた研修など、メンバーの状況に応じて形を柔軟に変えながら研修を実施してきました

職員研修及びマネジメント強化研修の実施

## 学びと相互理解を深め、事業展開を考える



フォーラムを研修と位置付け地域の方と共に学ぶ

毎月1回、全職員が集まり、情報共有やチームビルディングを目的とした研修の機会を設けてきました。東播磨生活創造センター「かこむ」および「かわのまちはいぐえん」の運営にあたっては、両事業の職員が合同で集う場を設け、1月と3月には次年度の事業展開について考える時間を共有しました。

まちづくり部門では、外部講師を招いた対話型の研修や、他団体との合同研修を通して、地域との関係性の捉え直しや新たな協働の視点を深める取り組みを行ってきました。一方、まちまなび部門では、保育観の共有や安全研修、個人情報・事故対応といった基礎的内容に加え、遊び場づくりフォーラムなどを通して、園外での学びや保育実践を地域に開く姿勢を大切にしてきました。



全スタッフ参加の研修後は仲を深めるゲーム大会も

また、マネジメント体制の強化を図るため、正規職員を対象に外部講師を招いてリーダーシップ研修を実施し、昨年度に引き続き人材育成にも力を入れてきました。4月以降には、判断力や対話力、「コミュニケーション技術」をテーマにした連続研修を実施し、実践的な学びを深めます。

担当職員が事業ごとに異なり、日常的な接点が限られる状況もあるなかで、今年度の取り組みを通じて得た知見を活かしながら、今後も情報共有や職員研修のあり方を継続的に検討し取り組んでいきます。

## シーズ機関紙「たのたね」

社会の変化や当法人の活動内容を伝える機関誌「たのたね(これからの「たのしいのたね」の意)」は、26号目を1月に発刊しました。「かわのまちまちあそび」などの事業を紹介しました。



vol.26  
これからのたのしい  
“ローカル”

## 総会

### 第23期通常総会の開催

出席者数：正会員総数47中40名(うち会場出席20名、オンライン出席1名、委任状9名、書面表決10名)

日時：2024年6月16日(日)14時00分～16時00分

場所：かわのまちリビング

審議事項：2023年度(第22期)事業報告の件、2023年度(第22期)決算報告の件

報告事項：2024年度(第23期)事業計画の件、2024年度(第23期)予算の件

## 理事会

第1回	5月28日	2024年度通常総会の議案書の確認、役員報酬について意見交換、承認 2023年度保育園補助金の積立について検討、法人の今後の展開についての検討 就業規定、経理規定の改定について、承認
第2回	8月2日	2023年度保育園補助金の積立について検討、承認 法人の今後の展開についての共有、検討
第3回	12月11日	保育園事業補助金積立金取り崩しについて、承認、冬季賞与支給について共有、報告 法人の今後の展開についての共有、検討
第4回	1月20日	シミンズシーズグループの整理について共有、 加古川まちづくり舎の既存事業の運営移管について検討、承認 2025年度からの家賃設定について共有、承認 加古川まちづくり舎への貸付について共有、検討、承認、賞与内規改定について、承認
第5回	3月25日	給与PJの共有、報告、2025年度予算、事業計画の共有、検討、承認 シミンズシーズ総合研究所設立について検討、承認、各種規定改定について、承認

## 2024年度役員

代表理事	田中 茂	柏木登起	副代表理事	佐伯亮太	井原卓也
常務理事	阪口 努				
理事	幾田一輝 猫田一城	石田 祐 柳川詔一	木上裕貴		
監事	高橋 逸	豊福 一			
顧問	嶋谷拓雄 畑本康介	田代恭也 船本博一	中村義弘 和田谷幸子		

2025年3月31日 現在

# 2024 年度講師・委員等派遣一覧

## 柏木登起

公益財団法人ひょうごコミュニティ財団  
高砂市人権推進課  
兵庫県地域振興課  
  
兵庫県地域振興課  
猪名川町  
佐用町企画防災課  
佐用町企画防災課  
兵庫県地域振興課  
  
奥銀谷地域自治協議会

企画委員 有園基金企画委員  
委員 高砂市男女共同参画プラン懇話会  
アドバイザー ひょうご多自然地域づくりネットワーク会議  
市町アドバイザーボードにおける情報交換会  
アドバイザー 市川町アドバイザーボード  
講師・ファシリテーター 猪名川町地域まちづくり協議会 第2回意見交換会  
委員 佐用町縮充のまちづくり検討委員会  
アドバイザー 佐用町地域づくりアドバイザー  
委員 ひょうご多自然地域づくりネットワーク会議  
人材育成プロジェクトチーム  
アドバイザー 朝来市奥銀谷地区アドバイザー

## 柏木輝恵

兵庫県東播磨県民局  
奈良県生駒市 市民活動推進センター  
生活協同組合コープこうべ  
公益財団法人ひょうごコミュニティ財団

委員 東播磨地域づくり活動応援事業  
講師 地域活動スキルアップ講座「魅力が伝わる企画づくりと考え方」  
講師 組合員・地域活動応援スキル研修会  
委員 「ひょうご・みんなで支え合い基金」【組織応援コース】

## 小笹雄一郎

NPO 広報友の会  
甲南女子大学  
摂南大学  
NPO 法人コミュニティアートセンターブラッツ  
公益財団法人 神戸市民文化振興財団  
NPO 法人姫路コンベンションサポート  
NPO 法人コミュニティアートセンターブラッツ  
一般財団法人 明石コミュニティ創造協会  
加古川市立 志方公民館  
市町社協活動推進活動協議会 東播磨ブロック協議会  
社会福祉法人 加古川市社会福祉協議会  
  
社会福祉法人 加東市社会福祉協議会

講師 シェアする Bar@三田に行っTEMIL2024 講師  
講師 NPO・NGO 論「国際問題・国内の社会問題の伝え方、伝わり方」  
講師 キャリア教育ゼミ生の企画授業講師  
講師 但馬コミュニティ協創会議  
講師 企画整理とチラシデザインのコツ  
講師 播磨国歴史ガイド団体育成事業 第4回  
講師 ファシリテーター養成講座  
講師 職員研修「企画整理と伝わるデザインのコツ」  
講師 地域学講座  
講師 SNS 運用の基礎講座「届けたい人に届く、情報発信のコツ」  
講師 社会教育・福祉教育推進員 小学校区代表者会  
～活動へ若い世代を巻き込むには～  
講師 ボランティア養成講座「伝えるから伝わるへ 伝わる力を高めよう」

## 木上裕貴

兵庫県北播磨県民局

アドバイザー 三木市アドバイザー派遣

## 石井加納子

公益財団法人兵庫県生きがい創造協会

講師 いなみの学園 1 年生 コミュニケーション 講義&ワークショップ

## 田瀬 佑美

兵庫県立加古川南高等学校

講師 キャリアデザイン授業・講話と体験ワーク「プロに聴く」

## 津久井あゆみ

兵庫県立神戸甲北高等学校

講師 産業社会と人間「社会を学ぶ」講演会

## 活動計算書(簡易版)

2024年4月1日から2025年3月31日まで

(円)

科目	2024年度実績	2023年度実績	増減
受取会費	278,000	331,000	△53,000
受取寄付金	114,666	291,784	△177,118
受取助成金等	70,338,903	62,491,353	7,847,550
事業収益			
受託料収益	28,956,000	26,896,000	2,060,000
利用料収益	17,645,279	16,793,411	851,868
自主事業収益	16,730,312	16,013,386	716,926
事業収益計	63,331,591	59,702,797	3,628,794
その他収益計	655,811	974,846	△319,035
A 経常収益計	134,718,971	123,791,780	10,927,191
事業費			
事業費計	125,233,317	111,183,938	14,049,379
管理費			
管理費計	8,771,979	9,316,384	△544,405
B 経常費用計	134,005,296	120,500,322	13,504,974
E 当期経常増減額(A-B)	713,675	3,291,458	△2,577,783
過年度損益修正益	0	21	△21
C 経常外収益計	0	21	△21
雑損失	3,436	705	2,731
過年度損益修正損	0	1,868	△1,868
D 経常外費用計	3,436	2,573	863
F 当期経常外増減額(C-D)	△3,436	△2,552	△884
G 税引前当期正味財産増減額(E+F)	710,239	3,288,906	△2,578,667
H 法人税、住民税及び事業税	82,000	82,000	0
当期正味財産増減額(G-H)	628,239	3,206,906	△2,578,667
前期繰越正味財産額	45,217,445	42,010,539	3,206,906
次期繰越正味財産額	45,845,684	45,217,445	628,239

## 貸借対照表(簡易版)

2025年3月31日現在

(円)

(円)

科目	2024年度実績	科目	2024年度実績
I 資産の部		II 負債の部	
1 流動資産		1 流動負債	
小口現金	666,945	未払金	8,945,192
普通預金	21,186,619	前受金	3,408,800
未収金	5,973,361	預り金	2,500
前払金	317,380	短期借入金	5,208,000
立替金	14,430	未払法人税等	82,000
短期貸付金	1,920,000	未払消費税等	1,384,900
流動資産合計	30,078,735	流動負債合計	19,031,392
2 固定資産		2 固定負債	
有形固定資産	43,571,841	固定負債合計	25,606,000
投資その他の資産	16,832,500	負債合計	44,637,392
固定資産合計	60,404,341	III 正味財産の部	
資産合計	90,483,076	正味財産期首残高	45,217,445
		当期正味財産増減額	628,239
		正味財産合計	45,845,684
		負債及び正味財産合計	90,483,076

## ひとつが繋がる場をつくる。これからのたのしいローカルへ まちのコミュニティ・コーディネーターとして、まちとひとをつなぐ

2025年度からは、ひととまちづくり事業に軸足を置くために、組織整理を行い事業を進めます。1つ目は、これまでの加古川まちづくり舎のソフト事業（かわのまちビング・かわのまちマーケット・他まちづくり事業）をシミンズシーズにまとめ、ひととまちづくり事業の可能性を広げます。2つ目はこれまでの「コンサルティング・ブランディング事業」は「シミンズシーズ総合研究所（略称：総研）」を創設し、役割分担を明確にした組織体制で事業に取り組みます。

「つながる場×まちづくり」を担うスタッフ（コミュニティ・コーディネーター）に求められる役割もさらに専門性が高くなると考えています。コミュニケーション力やファシリテーション力、企画力やマネジメント力など、コーディネーターの専門集団として事業を進めます。個々のスキルアップのための研修や学びに時間をかける1年とします。指定管理施設の「かこむ」が5年目の最終年度、新たな拠点として播磨町中央公民館も2年目を迎え、「ひとつが繋がる場」を育てていきます。保育園も5年目となり、まちほいくのまちへの広がりを丁寧につなぎ、発信していきたいと思えます。

これからのたのしいローカルを実現するために、新しいシーズのカタチをみなさんと一緒につくっていききたいと思えます。引き続き、変わらぬご支援をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 1 まちづくり部門

市民参加型公共施設運営事業  
まちとひとづくり事業  
市民参加のプロデュース事業  
講師派遣・デザイン事業

### 2 まちなび部門

まちほいく事業  
まちとまなび事業

### 3 シーズのジリツ（管理部門）

シミンズシーズのリブランディング  
新役員体制での法人の基盤づくり  
人材育成と評価制度等の見直し  
シーズグループの体制整理  
法人広報と会員への取り組み

## 2025年度の重点的な取り組み

### シミンズシーズのリブランディング・ 新体制の基盤づくり

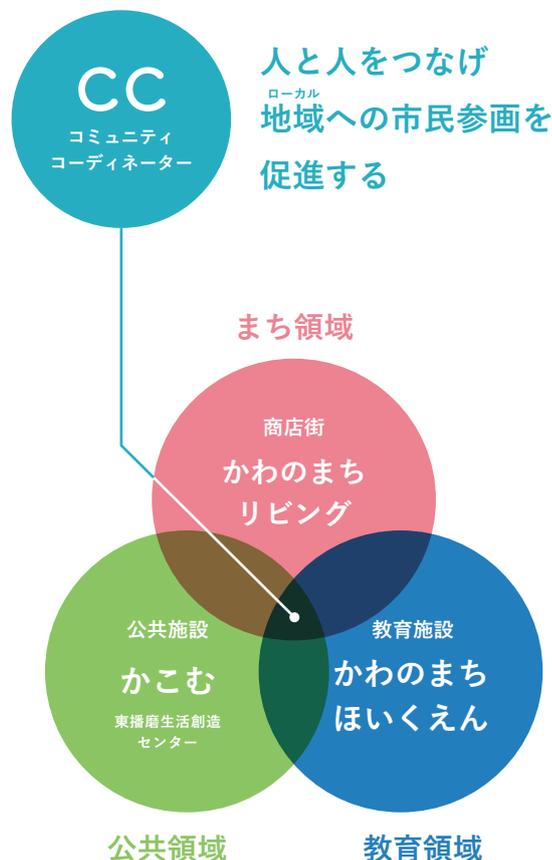
これまでシミンズのジリツを支援してきたシミンズシーズのアイデンティティをそのままに、新体制で次のステージを築いていきます。ひとづくりを軸としたまちづくりの展開に向けた組織基盤をつくってまいります。

### 加古川の商店街からまちづくり 保育園・リビング・マーケットの運営開始

まちほいくを広げる保育園の活動に加え、これまで加古川まちづくり舎が担ってきた「かわのまちリビング」や「かわのまちマーケット」をシーズの運営へ移管。一体運営することで相乗効果を高めます。

### 東播磨の公共施設でつながりを育む ひとつが繋がる場をつくる

指定管理施設「かこむ」の運営が5期目の最終年度を迎えます。コンセプトである「新しい自分に出会える施設」を大事にさらに多様なつながりを広げていきたいと思えます。播磨町中央公民館の共同運営も継続して行っていきます。





---

## シミズシーズ 2024 度年次報告書

発行元／問い合わせ先

NPO法人 **シミズシーズ**

〒675-0066 兵庫県加古川市加古川町寺家町 363-4

Tel : 079-422-0402 Fax : 079-421-0407 Mail : [info@npo-seeds.jp](mailto:info@npo-seeds.jp) Web : [www.npo-seeds.jp](http://www.npo-seeds.jp)